



東京地区生コンクリート協同組合  
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号  
電話番号 (03) 3271-2181  
URL: https://www.t-namakyo.jp/  
発行責任者 高村 尚

## ＝協組の動き＝

- (3月)  
9日(月) 理事会(No. 1255)  
23日(月) 理事会(No. 1256)
- (4月)  
13日(月) 理事会(No. 1257)  
27日(月) 理事会(No. 1258)
- (5月)  
11日(月) 理事会(No. 1259)  
25日(月) 通常総会

### 【第50回 通常総会】

日時：5月25日(月) 12時30分～  
場所：第一ホテル東京



「街をつなぐコンクリート」

## 2025年度(4～2月)出荷実績と今後の展望

当協組の2025年度4～2月の出荷実績は、前年比84.6%、年初計画比80.3%の1,980千 $m^3$ と前年実績及び年初計画数量を大幅に下回りました。これは、働き方改革による現場での生コンクリート打設時間、並びに週休二日制による打設日数の減少、さらに異常気象による大雨・猛暑の影響が起因していると考えられます。また、都心部での再開発工事や新規工事で工程通り進捗していないことも要因といえます。3月度の月初想定も180千 $m^3$ にとどまり前年比94.2%と前年出荷を大幅に下回る見込みです。これらを踏まえて2025年度の出荷数量は、前年実績に対し大幅減の、2,150千 $m^3$ 程度(過去最低出荷数量)と想定しています。

2月末の契約残数量は、4,016千 $m^3$ で

前年比116.7%と高水準にあります。従前より工期が伸びていることから日々的大幅な出荷増には結び付かないと想定されます。

2026年度の需要想定は、2,500千 $m^3$ を見込んでいますが、稼働日の減少と工期延長により、大幅な出荷数量増は見込めません。さらに、契約物件の中に特殊コンクリート(軽量・環境配慮型・高強度など)の出荷が4月下旬から多く予定されています。出荷可能工場が湾岸域工場中心となっています。さらに、大臣認定や材料指定など制約が多くなっており、予定が入りにくくなることが想定されます。現場様・登録販売店様には、安定供給のため正確な打設予定とキャンセル減少をお願いいたします。

月	2024年度実績	2025年度実績	前年比	年初計画
4	239,506	201,479	84.1	210,000
5	215,886	188,160	87.2	210,000
6	220,506	187,737	85.1	235,000
7	236,490	198,601	84.0	235,000
8	186,723	146,222	78.3	210,000
9	215,817	179,300	83.1	235,000
上期計	1,314,928	1,101,498	83.8	1,335,000
10	227,546	195,242	85.8	235,000
11	220,449	181,352	82.3	235,000
12	213,177	187,479	87.9	235,000
1	182,413	161,532	88.6	200,000
2	181,797	152,575	83.9	225,000
3	191,008	180,000	94.2	235,000
下期計	1,216,390	1,058,181	87.0	1,365,000
合計	2,531,318	2,159,679	85.3	2,700,000

※2026年3月度は月初想定数量

※2026年3月度は月初想定数量

	(出荷数量)				(引合、成約、契残)	
	2月(実績)		3月(想定)		2月(実績)	
	前年比	前年実績比	前年実績比		前年比	
大型	131,072 $m^3$	81.3%	160,000 $m^3$	95.3%	引合	430,780 $m^3$ 104.9%
小型	21,503 $m^3$	104.0%	20,000 $m^3$	86.4%	成約	351,895 $m^3$ 103.0%
計	152,575 $m^3$	83.9%	180,000 $m^3$	94.2%	契残	4,015,776 $m^3$ 116.7%

## 神田川風情

高村 尚

4回目の「コラム」への登板(当番)となります。書く題材に迷った結果、自宅のすぐ近くを流れる「神田川」に纏わる事柄をご紹介しますこととしました。

神田川と言えば、ご年配の方の中にはフォークソング全盛期の「かぐや姫」の楽曲のタイトルや曲中の「横丁の風呂屋」の歌詞のフレーズを思い浮かべる方も居られるかと思いますが、この川の名前の由来は、江戸幕府創設初期の治水事業に基づくもので、「井の頭公園」の「井の頭池」や「善福寺公園」の「善福寺池」などの水を集めて「神田上水」を整備したことが起源となっているそうです。

神田川は三鷹市の井の頭公園にある井の頭池に流れ込む湧水が源流(現在は活水減少の為、地下水をポンプで汲み上げているそうですが)となっており、両国橋脇の柳橋で「隅田川」に合流するまでの間に川の流路となるのは、三鷹市、杉並区、中野区、新宿区、豊島区、文京区、千代田区、中央区、台東区の1市8区的全長約25kmで、途中の中野富士見町駅(丸ノ内線)付近で善福寺池を源流とする「善福寺川」を併合しています。因みに「井の頭」はこの湧水池が神田上水の水源であることから徳川家光公によって「井之頭」と名付けられ、神田川の流路の一部に位置する「お茶の水」の地名はこの池の湧水を徳川家康公が関東随一の名水と褒め称えてお茶をいれたという伝説が名前の由来となっているそうです。

この神田川と善福寺川はいずれも杉並区・中野区内の流路の川幅が比較的狭く湾曲しており、個人住宅密集地の低地に立地していることから、以前は集中豪雨の際には川の水位が短時間で急激に上昇して氾濫し、付近の地域住宅への浸水被害が発生することが有ったようですが、過去において各々の川の杉並区内の環状7号線と交差する付近に地下調節池が施設されており、私が26年前の2000年に現在の自宅(丸ノ内線の中野新橋駅付近)に転居してからは、自宅付近で神田川が氾濫したことは有りません。

神田川は源流となる井の頭池までの間の流路に沿って側道(遊歩道)が設置されており、現在の自宅に転居して来た当初は休日には時々、当時小学生であった子供2人を連れて自宅から自転車で川伝いに井の頭公園まで片道12～13kmのサイクリングを兼ねて遊びに行っておりました。井の頭公園は人出の多い知名度の高い公園なので具体的な内容紹介は割愛しますが、神田川の支流となる杉並区内の善福寺川の流域沿いには休日には家族連れの多い「和田堀公園(敷地が広大です)」や「大宮八幡宮(平安時代に創建されたそうです)」といった緑の多い名所も立地しております。

ローカルな話題に終始した散文になりましたので、この辺で本拙文を閉めさせていただきますが、引き続き東京協組の様々な課題への取り組みにお役に立てるよう尽力して参りますので、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

(東京地区生コンクリート協同組合 専務理事)

